

◆「旧東川駅跡再開発プロジェクト」の背景

東川町では、1962年の農地基盤整備事業の開始以降、1969年に木工家具産業の振興を目的とした「東川町企業誘致促進期成会」を結成し、木工団地の整備や企業誘致を進め基幹産業の育成と発展に努めてきました。

1985年の「写真の町」宣言以降は、芸術文化を軸としたまちづくりを推進し、「写真文化」をきっかけに、国内外の多様な人や組織との交流を重ねながら、「大雪山文化」「家具デザイン文化」など、地域が育んだ文化による「適疎な町づくり」を2006年から展開しています。

令和4年（2022）度には、中心市街地の活性化を目的とする「ひがしかわ価値創造計画」を策定しました。この計画では、「東川の暮らしの魅力を発信し、人や地域をつなぐ」ことを目標とし、町の歴史的拠点である「旧東川駅跡」と「レンガ倉庫群」の利活用を、重要な課題の一つとして位置づけています。

さらに、東川町では、町の調和ある発展を図るため、5カ年を単位とした計画的なまちづくりを進めています。令和6（2024）年度から令和10（2028）年度までを計画期間とする「東川町新まちづくり計画2024」を、行政と町民の対話と協働によって令和5年度に策定しました。

この計画では、町民から寄せられた意見を踏まえ、新たな地域課題として7項目を抽出。現状の人口（約8,000人）を維持しながら、「大雪山の恵みを受けて、豊かな暮らしを共に育むまちづくり」を実現するための5つの目標を掲げています。

町では現在、対話と参加を重視したまちづくりを進めており、令和5年度から毎年、各自治振興区や町内団体を対象に「タウンミーティング」を開催しています。令和7年度は、その主なテーマとして「旧東川駅跡再開発プロジェクト」を取り上げました。

なお、「新まちづくり計画2024」の策定時にも、タウンミーティングでの議論を踏まえ、約50名の委員によるワークショップ形式の話し合いを重ねて内容をまとめています。

また、令和6年度には、5つの自治振興会がそれぞれ主体となってアンケートやワークショップを実施し、地区ごとの「自治振興計画」を策定するなど、地域コミュニティの活性化にも取り組んでいます。

◆旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想の策定に向けた進捗状況

本プロジェクトの基本構想の策定も、こうした「対話と参加」によるまちづくりの一環として進めています。

有識者からの提言や、7月に8回実施したタウンミーティングで寄せられた町民の意見をもとに、「旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定等懇談会」で検討を行っています。

懇談会は、町内関係団体から推薦をいただいた29名で構成し、旧東川駅跡再開発プロジェクトに対し、有識者の助言等を参考に、意見・提言を行います。また、委員の皆様が積極的に発言・参加できる構成として、懇談会はワークショップ形式で実施をしています。

基本構想の構成は、昨年度調査報告書とおおむね共通の構成を想定しており、3. 旧東川駅跡再開発プロジェクトの基本的な方向性として、旧東川駅跡再開発プロジェクトのねらい、基本理念、導入すべき機能、既存施設の活用方針、市街地及び町全体の活性化の方向性、概算事業費、整備・運営手法のイメージ、今後の進め方 について、懇談会、タウンミーティング等で得られた意見を共有しながら、基本構想の策定を進めています。

当初は年度内に5回の開催を予定していましたが、懇談会やタウンミーティングで寄せられた多くの貴重な意見を踏まえ、より丁寧な検討を行うため、策定期間を令和8年6月まで延長し、開催回数を7回に増やすこととしています。

懇談会は、令和7年6月30日から開始し、これまでに7月18日、8月20日、10月30日の4回、開催をしています。このほか、有識者が参加した会議は、6月30日（懇談会と合同）、10月6日の2回開催しています。

また、10月3日には、議会からの独自提言を踏まえた意見交換会を実施をしています。

<懇談会での主な検討内容>

第1回では、再開発の目的や懇談会の役割を共有し、有識者提言の確認のうえで、「東川町まちづくりブック2024」や各団体の事業計画を参考に、町や地域の課題を整理しました。

第2回では、農業・商業・観光・木工・教育など各分野の課題を共有し、町の資源（織田コレクションなど）を活かした解決の方向性を検討しました。

第3回では、タウンミーティングの結果を共有し、課題解決のための手法や導入機能の検証を行いました。

第4回は、これまでの検討を基に「ねらい」「基本理念」「機能」の整理を行い、これを踏まえ空間イメージ形成に向けた検討しました。

今後、懇談会では、空間イメージやゾーニングの形成、概算事業費や整備手法の検討を進め、基本構想の原案を策定する見込みです。

<基本構想（ねらい・基本理念・機能）の検討について>

第1～4回の懇談会では、現状の課題を整理し、解決後の理想像をイメージする中で、課題解決に必要な方向性（ねらい）、考え方（基本理念）、実現のための具体的取り組み（機能）を検討し、令和6年度までの基礎調査結果をもとに見直し案を整理した内容が、旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定状況住民説明会資料8ページの、ねらい、基本理念（案）、

9 ページは導入機能（案）となっています。

導入機能について、これまでの議論の中では、町の基本目標である「人づくり」「活力ある経済循環づくり」「コミュニティづくり」に関連する意見が多く出されたほか、プロジェクトにとどまらず、町づくり全般にかかわる意見も多く寄せられており、今後の検討に反映していく予定です。

◆今後の進め方

これまでの懇談会、有識者会議、タウンミーティングで寄せられた意見や、町が現在進めている事業を踏まえ、本プロジェクトの方向性、必要な機能やサービス、既存建物の活用方針案などを整理し、今後、懇談会・町民・議会に共有してまいります。

現在の町づくり事業の中において、旧東川駅跡の再開発がどうあるべきか、エリア単体だけではなく、東川町全体、中心市街地の中でどうあるべきか、検討を進めるうえで、現在、又は今後、町、民間事業者などが実施する事業について共有することを目的に、整理した資料として、10 ページが広域、11 ページが中心市街地となっています。

これまでの懇談会等の意見等を踏まえ、現段階における町の考えを整理し、エリア活用の方針（案）として、整理した資料が 12 ページになります。

エリアを大きく 2 つに分け、左側をミュージアムエリアとして、地域で培ってきた生活文化と織田コレクションの融合によりこれからの暮らしを創出する機能を配置するエリアとして、人づくり（文化）に資する機能を想定しています。

右側のエリアはパブリックアクティビティエリアとして、地域内の学び合い、国内外の産官学等との交流により新たな生活価値・経済価値を創出する機能を配置するエリアとして、人づくり（学び）に資する機能、地域経済の内発的発展に資する機能、コミュニティづくりに資する機能を想定しています。

エリア活用の方針案として、赤レンガ倉庫などを活用するほか、既存の公共施設なども活用し「町全体がデザインミュージアム」とのコンセプトに基づき、織田コレクション展示・収蔵庫、町民の多目的スペース、インフォメーション、ショップ、カフェ、路面電車、KAGU コンペ作品はじめ隈研吾氏と関連した建築アーカイブの展示、収蔵を必要な機能、サービスとして、既存建物の範囲は、レンガ造、石造等、一定の歴史的な価値を有すると思われる倉庫およびプラットフォームは原則として残し、既存倉庫で賄えないエリアに必要な機能については、建物を新築により整備をしていくイメージをしています。

なお、エリア活用の方針案は決定した内容ではなく、これまでの懇談会等の意見等を踏まえ、

現段階における町の考えを整理したものであり、今後、懇談会で検討を進めていくことを見込んでいます。

今後のスケジュールの見通しですが、一般的な例に置き換えて整理したもので、今後の検討状況や採用する事業手法により、スケジュールは異なる可能性があります。

令和8年度に基本構想を策定した後、本事業にかかわる条件をさらに詳細に検討し、基本計画として取りまとめます。その後基本計画で整理した条件に基づき、設計・建設・開業準備を、令和9年度以降に進めることを見込んでいます。

また、整備は全体を一度に行うのではなく、段階的に実施する可能性もあり、そうなれば、施設の供用開始も段階的になることも想定をしています。

町では、引き続き丁寧な検討を重ねながら、町民の皆様とともに、東川らしい再開発プロジェクトの実現に向けて取り組んでまいります。

ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。